제876호 1912. 2. 2.

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金三十錢 ▲三ヶ月前金九十錢 ▲六ヶ月前金一圓八十錢 ▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金十六錢 ▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町十番地

寄書

電鐵事業 公園經營論（二）

岡崎遠光

第一 街鐵と都市

電話、電燈、電車、瓦斯、水道、公園等は近世的都府に於ける最要の機關なり就中社會の全階級を通じて其の利便に浴せしめ且其の生活狀態をして輕快ならしむるものを電車及公園となす

士民相競つて益々都市に接還せんとするは十九世紀以降に於ける社會上及び經濟上の一大變象にして田園は日に住民を驅逐し都市は月に之を吸收す殊に商工業の經營者及使用人か都市に向つて麕至し其の繁華の中心に店舖を開展するの傾向を示すは近世的經濟組織上亦已む得ざるの理數乎

村落の人民が相繼いで都門に移住し來るは其の人間としての社交的心情に因するのみならず其の生活上必要なる物資及物資の源泉たる金錢を得んが爲に外ならず此の如くして都市の人口は益々稠密し家屋は愈々櫛比し爲に寸土猶千金の價を生ずると同時に一方に於ては大厦雲に聳ゆるの建築を見他方に於ては陋屋僅に膝を容れ家居日光を見る能はざる者あるに至れり是に於て乎都市問題及社會政策頻に唱へられ現時文明國に於ける都市經營者は如何なる施設に由つて以て市民の社會上及生活上の需要を充たし且其の享樂、衛生及慰安を全うせしむべきかの點に付百方考慮日猶足らざるが如し而して此の目的を達し得る一捷徑は即ち電氣鐵道及公園の建設に在り電鐵の布設は啻に此の目的を達し得るのみならず之が改良及擴張は益々都市の繁榮を促さずんば已まず蓋し其の初期に於ては大抵都市に從屬して設計せらるゝものなりと雖も一定の布設を終りたる後は或は電鐵却て都市を支配し市民居宅の分布は概ね軌道の方向に沿ひて決せらるゝの觀あり此の現象は新設線路の近傍に於て日に月に新家屋の建築せらるゝを見且郊外居住者の著しく增加せるに徵するも明なり故に近來電鐵會社自ら進んで新線路の近傍に住宅を建築し以て市民の需要を充すに至れり是に於て電鐵の發達と公衆の利用と都市の發展とは互に相關聯すること益々密接となれり即ち電鐵の進歩は公衆の便益を增加し公衆の便益々都市の繁榮を促進し都市の繁榮は亦益々電鐵の改良を助成することゝなれり

大都市の人口は漸次市外に向つて溢出し之を收容せる村落は俄に其の面目を一新し昔時茅屋遠々畔畷の間に隱見し雞犬の聲相和せしもの今や邐迤又は高嵩なる建築日を繼いで起り軌道は蜿蜒として四方に走り車馬絡繹するの繁榮を來し地價は漸を追つて昂騰するに至れり韓近電氣鐵道の郊村に對する貢獻も亦大ならずや

今試に東京市に於ける人口移動の大勢を通觀するに東京商業會議所が明治三十五年十二月現在と明治四十年十二月現在とを比較したるもの及東京府が明治三十二年十二月現在と明治三十六年十二月現在とを比較したるものを見るに實に驚くべきものあり即ち前者に依て時は東京市の中心なる日本橋區、京橋區及芝區の如き五箇年間に僅に一割四分乃至二割の增加に過ぎざるに市の稍々外廓とも稱すべき麻布區、赤阪區及本鄕區の如きは三割乃至四割九分に特に牛込區の九割を最も甚しとす又後者に依りて見る時は豐多摩郡の四割南葛飾郡の二割其の他と雖も一割內外の增加を見ざるはなし是に由りて之を觀れば電氣鐵道の利便に依りて市民が漸次郊外に散在し隨て附近村落に人口の增加する傾向は實に爭ふべからざるの事實なり是等住民の家族が黄塵萬丈の間を離れて花園菜圃の裡に起臥し以て精神を暢快にし以て身体を壯健にするは都市政策上より觀て最も喜ぶべき現象なり而して隨處、村落、發達を促し都市の膨脹力を助成するものは電鐵事業の功最とも其の多きに居ると謂ふも蓋し過言にあらざるべし

群山通信（二十二日續き）

▲就中米の出ないのは最近に於ける特殊の事情か大原因となつて居るから茲に其概略を說明しよう勿論之は從來の高値に隨伴し覺實情が主的原因となつて之に隨伴して新問題が起つた爲に今日の樣に米の出廻が少くなつた。

▲新問題とは何であるかと云へば近來內地及朝鮮で頻に喧傳せられつゝある米穀の輸移出關稅撤廢問題である、而して此關稅撤廢問題が近來漸く事實とならんとするの傾向を現したれば忽ち去春以來の高値に味を覺へ好奇心に富める朝鮮人の思惑心を惹起し之を唯一の材料とし一部の內地人と相呼應して熱心に買煽りし爲め終に現時の如き奇異の現象を見るに至つた。

▲斯く表面より觀察すれば這般の買占の如き朝鮮人が一時の機會に乘じ投機心に制せられたる觀あるも更に之を裏面より觀察すれば確に併合以來生命財產に對する保障を得、安じて商業に從事するを得るに至りしと同時に他方に於ては時勢の變遷に伴ひ朝鮮人も大に商機に習熟し從來內地人の獨占に歸せし米穀の取引業も彼等は進んで經營し否寧ろ進んで內地人と肩を並て米界に馳驅するに至り終に這般の壯擧を敢てするに至つたのは畢竟朝鮮人經濟思想の發達に職由すると云つても蓋し不可はあるまい。

▲事實の上より見れば現時の米界は諸種の原因錯綜して實際何人も其眞相を看取するに苦んで居るよし、近き將來に於て關稅が撤廢せられたりとするも朝鮮人の買占が果して豫想通り成功するや否やと云ふことは疑問である併し內外の情勢は切迫して居る丈に幕明後の舞臺は變化も多樣なる可ければ吾人は刮目して今後の成行を見物すべしである

外事一束

▲露帝● 英國下院議長及び上下兩院議員一行をツワルスコエセロ宮に引見す

▲伊軍● の佛國郵船抑留問題は佛伊間の交涉の結果兩國の滿足を以て解決す

▲伊國● 砲艦英國漁船二隻より六名の土耳其兵を捕虜とし之れを羅馬に送る

▲監督● 敎會倫敦監督壯嚴なるコルドン將軍三十七年祭の獻燈式を擧行せり

▲獨逸● 諸新聞擧つて皇帝御誕辰日歡迎祝文を揭げ獨內外形勢改善を確信す

▲誕辰● に當り獨帝獨逸飛行機の最良なるものに對して五百萬馬克を懸賞す

▲南米● 亞爾然丁パラグエ間外交關係斷絕す但し交戰に至らず解決を見んと

▲巴里● 通信曰く獨國はトリエストに於ける獨逸艦隊根據地の撤廢を報すと

▲土國● 今春を期しアルバニヤ地方特

俳句

●見切もの　野崎小蟹

○素人の呉服屋と云はれて面目ない

御愛顧とぶつきら棒に御慶哉

女房よか酒よか何れ今日の春

○七草　春駒

薺打つにアラ、ンの唄隣家にす

七草や調子はづれて下女の笑

春駒や御苑を荒るゝ隣の子

綱長し玄關ぞ狹き春の駒

○今度のは冬季なれば大安賣に候

爐開や烏羽玉の闇山颪

人骨も交るべう洞に焚く榾に

とぐろ卷て俳行脚酒に榾の宿

埴生輪入形榾火にかざし心足る

白き花とも見し [illegible]

榾に斧くれて [illegible]

笹にさす小鮮燒 [illegible]

歌口も出來妻唄 [illegible]

明日焚かる榾弔 [illegible]

○最終の句は [illegible] じて又來て度とまる』

梁川庄八　第九十一回

小金井蘆洲演

人『仕樣のねへ貧乏侍だな何うでも斯うでも之れより外に金はねへと吐すのか』浪『あれば何程でも遣はす、此外には一文も持合せがない』乙『倒さに振つても出るものは鼻血ばかりと相場が極つたか、二分でも取らねへのは損だ貰つて置け』甲『馬鹿云へ二分ばかりの金を取る爲に此十人が面を揃へて仕組んだ仕事ぢやねへ』乙『だつて無へものは仕方がねへぢやねへか』甲『いや然うでねへ此上は此女が見當だ、旅に窶れて居るとは云うもの、是れでも磨上ければ立派な代物、知らねへ土地で賣たら此面ぢやあ、三十と五十の金にはなるだろう、構はねへ引つ浚つて金にしろ』乙『金にしろ違へねへ、有繫に此中の兄分旨い處に氣が付た、夫おや然うと爲やう』甲『やい女、こんな素寒貧に身を任せて生涯旅鴉で終らうより、俺達の言ふことを聞てさあ是から知らねへ土地に行て赤い衣服を着て店に座つて見ろ、なあ田舍の大盡の旦那どんに身受をされて、たゞ寢ぐるみで榮耀榮華、今の悲みは後の喜び、さあ唯と云つて俺達の云ふことを聞け惡いことはいはねへ』と腕首取て引立てようとする、其手を振拂つて女『武士の妻に對して慮外を云ふと手は見せぬぞ』人『なに生意氣な事を吐すな、手を見せるのが嫌なら懷に入れて置け、エー奇麗な手首ぢやねへか、細根大根に白魚を五本並べたやうな手首、見せるも見せねへもあるものか』と雪崩れかゝる其手を逆に振上げ、發矢と打つたる手練の早業、其に件の人足はばつたり尻餅を搗く、腕前に聊か恐れを懷いた人足共人『面に似合はねへ尼の腕前、して見れば野郎も手怖な奴に違へねへ、此上はた代官に訴へた出役を願つて表向き御褒美に預かるより仕方がねへ、さあ俺が役所へ駈付ける此奴等を逃さねへやうにしろ』乙『よし〳〵太へ浪人者だ貧乏動きもさせるものか、兄哥早く行て下せへ』一人の人足はやをら身を翻して代官の陣屋を指して行かんとするを、此時此方の松影に最前より始終の容子を窺い居たる梁川庄八堪り兼て飛出し、其人足の横面目蒐けて碎けよと云はぬばかりに鐵拳を振上げて、一聲叫んでピッシャリと打てば、眼睛飛出し其儘アッと斃れて息絶へました、此物音に人足共振返つて見れば雲を衝ばかりの大の男、形容四邊を拂ひ兩眼を怒らせ磕と此方を睨付けたる其有樣は鬼か人か、抑魔王なるか、さしも闘太き人足共、ぎよつとばかりに打驚き人『やあ〳〵彼奴は天から降たか地から湧たか何だか今日は妙な日だぞ命あつての物種それ逃ろ』と秋風に木の葉の散る如くむら〳〵ばつと逃出したり、浪人夫婦は庄八の前に至りて大地に兩手を支へ浪『危き所を取扱ひ下され難有う存じまする其許樣の御姓名は』庄『拙者は奧州仙臺の浪士梁川庄八と申すもの始終の樣子は此蔭にて承はつた、失禮ながら何か身にたゞ望みある仁と推察致したが左樣か』浪『仰の如く仔細あつて故主の名は申兼ますが、拙者は東國の武士藤代市太郎と申す者、是なる愚妻は雪と申まする者、固我々夫婦は親の敵……』庄『アヽ暫く……、望のある身は草にも木にも心置かれよ、大望は迂濶にた明しなさらぬが宜しい、夫を承るからは誓言立をして其上にて承るのが法なれど、何を申も此處は旅中若しも對手方に洩れてはと云ふ遠慮が拙者に御座る、又仰せなくとも拙者も聊か推量罷在る』浪『大きに御尤でござる』庄『シテ是より何處へた越しなさるか』浪『上京仕ります』庄『京都は何の邊に旅宿を求める思召しか』浪『エー京都二條寺町妙滿寺と申す法華寺へ旅宿を求める心得、住持は手前の俗緣に當ります る者、望は京都で果しまする所存』庄『アー左樣か拙者も遲かれ早かれ上京致する所存、其節妙滿寺に御訪申て、次第によつたら貴下の望を承り、身不肖ながら一臂の力をた貸し申そう』浪『夫は誠に千萬忝なく存ずる』庄『夫に就て御注意申て置たいのは、是より鳴海の宿へ掛つて參れば、彼の人足共が腕に撚をかけて、御自分等の御入來を待て居る事でござれば、薪を脊追て火に近附くに異ならず、石を抱へ淵に臨むに似たる者にて危險此上もござらねば是より鳴海は通らず道を轉じて御出が宜敷かろう』と注意を致しました



株式會社韓一銀行 第十一期營業報告（自明治四十四年七月一日 至同年十二月卅一日）

貸借對照表

負債之部

科目	金額
資本金	[illegible]
諸積立金	[illegible]
未支拂配當金	[illegible]
諸預金	[illegible]
內 定期預金	[illegible]
無期預金	[illegible]
小額預金	[illegible]
預金手形	[illegible]
通知預金	[illegible]
別段預金	[illegible]
支拂送金手形	[illegible]
借入金	[illegible]
他店借	[illegible]
當半期純益金	[illegible]
前半期繰越金	[illegible]
合計	[illegible]

資產之部

科目	金額
拂納未完資本金	[illegible]
任出金	[illegible]
貸付金	[illegible]
無期過手形	[illegible]
割引手形	[illegible]
有價證券	[illegible]
他店貸	[illegible]
支店へ	[illegible]
家屋	[illegible]
什器	[illegible]
金銀	[illegible]
合計	[illegible]

損益計算

一 金五萬五千八百八十二圓十四錢 本期總益金
一 金二萬一千八百四十七圓八十錢 前期繰越金
一 合計金七萬七千七百二十九圓九十四錢
一 金三萬四千七百八十八圓七十六錢 本期總損金
除 殘金四萬二千九百四十一圓十八錢 本期純益金

此配當計算左ノ如シ

金三千圓 準備積立金
金七千圓 別途積立金
金六千二百五十圓（年一割） 株主配當金
金二千一百圓 役員賞與金
金二萬四千五百九十一圓十八錢 後期繰越金

株式會社韓一銀行
頭取 趙秉澤
專務取締役 白寅基
取締役 白周鉉
取締役 朴泓鎰
取締役 劉秉璉
支配人 金鎭玉

前記ノ各項調査ヲ遂ゲ其正確ナルヲ保證ス
監査役 李相弼

監査役一人補缺選擧ヲ行ヒ李容汝氏當選ス

東京電報

▲政治を袁に委任 一日發 北京電報に曰く北京政府は三十日内閣會議を開きたる結果今俄かに皇帝退位を發表せば如何なる騒亂を惹起するやも計られざる故に先づ皇帝政治を辭し一切の政權を袁世凱に委任せることに決したり尚三十一日も内閣會議を開けり

▲政体承認決議 政友會の杉田日向國民黨の菅原鶴本中央倶樂部の竹內齊藤の諸氏及び三宅雪嶺博士黒岩周六等百名の諸氏が熊本軒に會合せし結果左の決議文を可決し實行委員二十余名を選びたり

決議文 吾人は我政府が列國に先じて支那共和政府の承認を促さん事を期す

▲紀元節と宮中 二月十一日は紀元節に付天皇陛下には皇族殿下を始め奉り大勳位親任官同待遇者、貴衆兩院議長、公爵從一位、勲一等官、貴衆兩院副議長、其他勅任官同待遇、並に各國大使等五百餘名に酒饌を賜はるに付目下御召状の發送に忙し

▲珍田大使出發 珍田駐米大使は夫人同伴三十一日午前十一時五十分新橋發列車にて横濱に至り午後三時解纜の地洋丸にて赴任の途に就けり

▲寺尾博士叙位 共和政府の法律顧問寺尾亨博士(法科大學教授)は二十七日東京帝國大學教授を依願免官となりたるが近日特に正四位に叙せらるべしといふ

▲墺國外相危篤 墺國外相として歐洲外交界に名聲あるエーレンタール伯爵は危篤に陷れり

▲里斯本の罷工騒 葡國リスボンに一般的罷工起り戒嚴令を布かれたり

北京特電

▲蒙古王の密議 蒙古王等は三十一日秘密會議を開き共和政体反對の意見を立てんとせしも革命派の脅迫により何等決する事なくして散會せり

▲外交團の警戒 北京外交團は近く皇帝の退位決行せらるべきを豫期し其と共に滿漢人の激戰行なはれ北京市中の修羅の巷と化せん事を恐れ各公使館は極めて嚴重なる警戒を爲しをれり

▲退位切迫と公使 列國公使等は皇帝の退位愈々切迫せるを憂ひ三十一日午後二時より秘密會議を開き何れも長文の電報を其本國政府に發せり

▲蒙塵地の決定 慶親王は三十一日秘密會議の結果皇帝の蒙塵を熱河に決定し退位發表と共に北京を引揚ぐべしと

▲皇太后の裁斷 皇族中には新政府との年金關係を解決したる後退位せしめんとの意を袁世凱に諮りたるに之れに反對し結局皇太后の裁斷にて自由退位と決定したり

漢口特電

▲愈々北伐決行 革命軍は去る二十四日以來武昌より北伐軍を編成し北京に向つて出發せしめつゝあり漢江下流に於ては南京、安徽、[illegible]二個師團の北伐軍を[illegible]陽羅より上陸、出發[illegible]より二個師團を編成[illegible]送り前記各軍と合し[illegible]、河南、湖北の三方[illegible]武昌軍と合して續行[illegible]漢陽を引揚げたる官軍も[illegible]中の物となり終りたる形勢なりと

天津特電

▲暴動陰謀露現 天津に於て大暴動を起さんとする陰謀露現し首謀者數名逮捕され十余名銃殺せられたり

雜報

●議會と朝鮮問題 三十一日總督府に達せる朝鮮問題に關する報左の如し

本日の衆議院豫算第七分科會に於ても專ら本府所管事項に關する大体質問を續行せり[illegible]は公債特別會計の歳[illegible]關係官吏に尚加俸を[illegible]繰入金と一般會計補[illegible]し長晴登は事業公債[illegible]收支損益の將來、移[illegible]方針、植林治水灌漑[illegible]の産額と内地へ供[illegible]殖産業開發に關する[illegible]拓茂輔は東洋拓殖會[illegible]府の所見及同社が[illegible]に多額の賞與をし[illegible]繰越を爲せるに拘[illegible]給與せり拓殖會社[illegible]合には補助金を減[illegible]るに政府は尚は補[illegible]理由に關し水品平[illegible]經營及本府宴會費と交際手當との關係に付き又中川虎之助は灌漑治水に關する政府の覺悟、鮮人高等教育の方針、日鮮人間の結婚及戸籍關係等に關し質問あり荒井大屋兩委員より一々答辯せり

●政務總監東上 東上の期を延期し居たる山縣政務總監には愈々二日午前九時南大門驛發列車にて桑原秘書官を隨へ例の官制改正案を携帶東上する事に決定したり

●戻税撤廢と請願 既報京仁に於ける清酒釀造業者は戻税撤廢に就き同業者一同連署の上其の筋に請願せんが爲め其の後請願的趣旨書を作り昨今右趣旨書を龍山の同業者に廻付中にて更に釜山に廻送する由なるが愈々當局に請願するにいたるは本月下旬頃なるべしといふ

●官設龍山苗圃成績 勸業模範場龍山支場苗圃に於ける桑苗培養成績を聞くに親木一株に對する收苗數は魯桑樹齡四年生は一千本三年生七百八十本二年生四百七十本市平は三年生千二百本二年生九百八本赤木四年生千五百五十本島之内四年生千四百六十本にして赤木及び島之内最も成績良好にして又た最近一ケ年間に於ける各苗木產額は代出苗四萬六千五百六十九本實生苗九千二百三十二本市平は代出苗一萬三百九十本高助は代出苗三千四百二十五本島之内は代出苗五千〇五十二本にして合計代出苗六萬五千四百三十六本實生苗九千二百三十二本總計七萬四千六百六十八本なりと

●教員轉任問題 京畿道長官が去月二十七日京城居留民團立龍山小學校訓導淵上長利氏に對し之れが管理者たる古城民長に何等の交渉諮議も無く突然京畿道管内なる驪州公立普通學校に轉任を命じたることは之れ明に民團を無視し民團教育の行政を蹂躙するものなりとして端なくも民會議員の激昂を招き遂に別項記載の如く三十一日の民會に附議されたるが當日大村(百瀨)議員は今回の官憲の處置は民團開始以來一回もなく今回を以て嚆矢とせるが這は官憲が民團なるものを認めず同時に民長の職權を無視したるものなれば一面當局の不道義を鳴らすと共に民長は其の職責に對して處決するを要す尙這は重大問題なるを以て調査委員を設くべしと述べ皆川議員は民長は同問題に對し職責上遺憾なく盡すべきことを盡したるを以て民長の信任を問ふの要なく又調査委員を設くるの要なしと駁し大に議論に花を咲かしたるが結局事實の眞相を究むべく調査委員を設くることとし原勝一氏外四名を調査委員となしたるが要するに同問題は學校規則に依れば民長に諮議する要なきも行政上の德義と從來の慣例とに依り一應管理者たる民長に諮らざりしは當局の失態といふべく民會議員の反感を買ふも無理ならぬ次第なるべし

●京城民會議事 京城民會は既報の如く去月三十一日午後四時より民團樓上に於て開會さる議案は(一)賭場經營に關し豫算削除の件(二)對總督課税の件(三)隣接空地買收につき民會議員中防害を爲せしものありとの世説に對し事實調査の件(四)新龍山小學校淵上訓導の轉任問題に關する件等なるが一は未だ總監部より何等の回答に接せざるを以て從つて來年度の豫算に計上せし十二月より二月迄の分を削除する事(二)は總督に敬意を拂ふため課税せざる事(三)は單に風説のみにては要領を得ざるを以て調査委員を設け充分に調査せしむる事(四)は調査委員を設けて事實の眞相を確むることゝし(別項記載)七時閉會したりと

●民團税制整理案(一) 既報の如く京城居留民團税制整理案は其の後古城民長の手許に於て調査草案中なりしが過日愈々脱稿完成したるを以て更に次回の民會に提出する由而して之れが説明及び案件は左の如し

説明

從來各個人の税額を定むるに方りては確乎たる標準に依らず殆んど理事者並に居留民會の認定せるもの少からず依て簡易に實行を期し得るの範圍内に於て一定の課税標準を定め比較的公平に賦課の根本を定めんとす今左に各税目に就き説明をなさんか

一、戸別税の如き地方税規則に依る内地徵收法の實例を見るに家屋を本位とし家屋の地位及家屋の構造其他坪數に依り賦課せるもの最も多しとす然るに當民團に於ては從來所得額を標準とし賦課せしも前述の如く各見込認定に過ぎざるを以て内地の例に則り或は又税制調査委員の意見を參酌し其他從來の慣例にも鑑み所得額及家屋の賃貸價格を標準とし課税せんとす

二、營業税、雜種税の如きは是又殆んど認定を以て各個人の負擔額を決定せしも内地に於ける國税營業税、縣税營業税の課税の實例を見るに各業目に依り家屋の賃貸價格、從業者、資本金或は收益等其商行爲上確實に顯はれたるものを標準とし課税しつゝあり依て此の例に則り又税制調査委員の意見其他從來の慣例を參酌し課税せんとす

三、土地税にありても内地の例に依り一筆毎に地價を定め課税せんとす要するに當民團に於ける從來の認定方法を廢し一定の標準を設け以て實際に適合し得可き公平なる賦課をなさんが爲め本案を提出せる所以なり

●京城府内教育機關 四十四年十二月末日現在の京城府管内に於ける學校數教員及び生徒數は朝鮮人側に於ては九個の公立普通學校ありて其の内に三個の簡易實業學校を併置し其の教職員總數は六十六名にして生徒總數二千百五十八名あり又た日人側としては民團立高等女學校外六個の小學校にして其の教職員總數百二十名生徒總數四千九百八十七名なりと

●會議所役員會 過日商工調查會の決議したる各種事項に付近日會議所役員會を開き協議する筈なり

●四十四年度の輸入鹽 昨四十四年度に於ける輸入鹽の總計は一億四千百三十萬斤餘にして之を四十一年の七千四百五十萬斤四十二年の五千七百六十萬斤四十三年の九千三百二十萬斤に比すれば非常の増加にして其鑑定價格五十六萬七千餘圓なるが此輸入鹽總額中清國より輸入するもの殆んど大部を占め其額一億三千五百萬斤に上り殘額六百餘萬斤が内地、臺灣、關東州等より輸移入せらるゝものなりと

●鹽價高値の原因 昨四十四年は春期に於てペスト流行のため清國よりの輸入杜絶し夏期には降雨續きにて天日製鹽の產額減少したるのみならず關東州の產鹽も天候不良なりしため非常に減少したりしかば十二月頃に至りて臺灣鹽の輸入を見たる有様にて旁々鹽價は品不足の結果自然に高價を保ちつゝあるものなりといふ

●蠶業講習卒業式 既報の如く勸業模範場龍山支場所屬女子蠶業講習所にては卅一日午後一時より講習生の第二回卒業式を擧行したるが水原勸業模範場長本田博士、菊地農商工部長官中村農務課長の告辭及び講話、朝鮮貴婦人の祝辭、卒業生總代金鶴信の答辭等あり卒業生は金鶴信外十六名にして來賓の重なるものとしては菊地農商工部長官、本田勸業模範場長、檜垣道長官、中村農務課長、宋秉畯外五十餘名にして頗る盛なりしと

●女學校と財團法人 淵澤熊惠女史等の經營に係る京城中部淑明高等女學校は豫て財團法人組織設立に就き其の筋に申請中なりしが此の程認可されたりといふ

●棉花及苧麻の調査 農商工部商工課にては全羅南北道及び忠清南北道に於ける棉花及苧麻の狀況を調査せしむべく近々野田技師及び小原試補をして約一ケ月の日子を以て出張調査せしむる由なり

●漢城共同在庫品 漢城共同倉庫株式會社に於ける一月卅一日現在の在庫品個數及び見積價額は玄米二千四百五十一個一萬五千五百五十四圓、白米二千四百四十一個一萬五千三百四十九圓、糯米二十四個二百十六圓、麥二百四十六個九百十圓、豆類百〇三個四百三十二圓、麥粉千二百三十五個二千九百十四圓、砂糖十九個百八十九圓、洋酒千六百五十六個二萬一千〇七十五圓、食料品十三個九百圓、綿織物四個千圓、麻織物五十四個五千七百〇五圓、毛織物六十六個二萬六千八百八十圓、洋紙類二百三十六個一萬八千百十七圓、和紙百〇五個五千三百十三圓、金屬製品七十五個二千〇二十圓、煙草七千二百二十三個五萬七千四百十九圓、雜品百個四萬七千五十五圓にして總個數一萬五千六百十四個總見積價額二十萬二千五百六十二圓に上り見積總價額に於ては昨年同月の十二萬八千四百八十二圓に比して七萬四千〇八十圓の增加を來し居れるが各品種に對する數量及び見積價額等の割合は昨年同月に大差なし

●鮮人間の商況 昨年十一月以降一時鮮人經濟界の緊縮と共に賣行を減少したる鮮人向雜貨品も昨今に至りては鮮人舊正月前と云ひ且つ米價も僅少ながら地方よりの米穀も弗々と出廻りあり幾分金融の自由を得るに至りたる爲めか漸く鮮人向諸雜貨の賣行を増加し白金巾シーチング類に至りては既報の如く三エー印九龍印共本年に入り既に二千個余の移入を見たるに拘らず着直に品切を告ぐるの有様にて賣行宜しく紡績糸も是れ亦内地に於ける原料不足の結果移入僅少にして品不足を告げをるが其他鮮人向贅澤品化粧品類の賣行非常に加はり弗々移入を促すに至りたりと云ふ

●總督夫人東京發 寺内總督夫人には一日午後三時東京發河野武官同伴にて渡鮮の途に就きたる旨通報ありたるが當地着は多分來る四五日頃なるべしと

●檢事の出發期 新任釜山地方裁判所檢事正藤鉦次郎氏は來る八日當地發赴任に略ぼ決定せりと

●仁川電氣總會 仁川電氣會社にては三十一日午前十一時より民團樓上に於て重役會議を開き續て午後一時より第十二回定期總會を開き四十四年度下半期利益配當率年利五分を可決せり

●三田會の開催 故福澤諭吉先生に縁故を有する人々は來る三日午後六時より旭町白水に於て故翁紀念會を兼ね三田會開催の由にて出席者は當日會費三圓持參あるべしと

●河野武官の着任期 河野新任武官は總督夫人同伴一日朝東京出發赴任の途に上れるが多分四五日頃入京すべしと

●若松釜山府尹歸任期 出京中なりし釜山府尹若松兎三郎氏は二日午前九時三十分南大門驛發列車にて山縣政務總監と同車歸任の筈なり

●中山武官の出發期 中山武官は河野武官の着任を待ち來る七八日頃出發すべしと云ふ

●中山武官の送別宴 中山大佐轉任に付二日午後六時より花月に於て同氏の爲め盛大なる送別宴を開くべし

●奥田貞次郎氏東上 仁川商業會議所會頭奥田貞次郎氏は[illegible]止運動の爲め二日東上す

●衛生講習會の終了 去月來京畿道廳に於て同管下の[illegible]に關する講習會を[illegible]八日を以て終了したりと

●命令航路發着認可 本月中[illegible]朝鮮沿岸命令航路[illegible]木浦線、釜山迎日灣[illegible]一日認可されたり

●峯岸本社長の東上 峯岸本社長は去月三十一日夜行列車にて東上の途に就けり

公人私人

▲大森郡夫(關東都督府[illegible])三十一日山本旅館へ

▲橋本逸(技師)同日[illegible]

▲菱田義民(忠南[illegible])歸任

▲澁谷太吉(農銀[illegible])同上

▲小松庫之助([illegible])同日龍山へ

▲京城手形交換高

二月一日	[illegible]	[illegible]	[illegible]

▲茶袋▼

淵上某に對し京[illegible]仕を命じたとい[illegible]を招き終に民會[illegible]

▲小學校教員の[illegible]限であるとは云[illegible]る民長に諮り之[illegible]である、是迄の[illegible]によつてをつた[illegible]考慮茲に及ばず[illegible]り直ちに職權を[illegible]損じたのは官民[illegible]して、我輩は頗[illegible]

財政の根本は税[illegible]我社は幾の頃各[illegible]意見を徴し本紙[illegible]トコロが愈々民[illegible]出せられた、民會[illegible]て遺漏なきを期す[illegible]の移出税を廢す[illegible]朝鮮に於ける鑛業[illegible]欲せば先づ繭を[illegible]筋の内議が一日も[illegible]第一の急務であ[illegible]を切望して止ま[illegible]とを混同して、[illegible]ふ理由の下に、[illegible]伯に對し民團税[illegible]會の決議は吾輩[illegible]することが出來[illegible]

本紙連載中の[illegible]す」は筆者不在[illegible]



元花月の仲居頭　れんのぶの述懐談

（其の五）

『其様は其儘済みましたが浚まぬは野田さんの胸の内、兎に角何年かの後の今日には子爵の殿と呼ばれようと云ふ御働き者、此只ヨボならずです、か、仕返しと云ふ譯でなくとも何とかして大臣には出る事と思つて居ました、が夫れも今は忘れ果てた頃の或る時の夜の事、權助さんが矢張花月で御宴會を成さつて居らした時、何處を座うして聞附になつたか野田平さんが血相變へて乘込まれた事がありましたよ、恰度其時は私が玄關に居りました時でしたから、キリと肩に當つた先日の事何方に座らした事があつて相済ます……斗りではない名は權助でも林さんは當時の公使さん相怨があつて後の迷惑と思ひまして、野田さんにはれ座敷が無いと申し上げて無事に歸し申さうとしたんでムいます、エ、其時分の野田さんには私共はヨーク御座敷が無いとは申せませんでしたがね、御勘定の關係なんて其様な事はありませんでしたが……と話に氣の乘つた女中が『オホホ、オホホ』と口を噤んで『ヌルイ貴許』其時の野田さんが『待つて下さいまし思ひ出して笑ひますから、オッホホ……』と云ふ、アー塞らない、先刻致しましたね、ヲ、御座敷が無い、フーム、オイ女中何、座敷が無い、フーム』と王立に突つ立て野田平さんが、漸やく笑を忍んで『玄關に仁王立、ヨボの金だつて權助の金だつて同じぢやないか、座敷が無ければ無いで宜い、併し雪隠はあるだらう便所は雪隠でも宜いから俺に酒を飲ませろ』と斯うでムいますも夫れ恐ろしい權幕で下駄穿きのまゝ二階へドシ〳〵れ通りになりましたがありました、ハア夫れは慥か三十八年の暮の事でムいましたよ、記臆て居ります、全体花月では朝鮮人だとて來ては御客様に致なかつたのでムいますよ、例令大臣でも大將でもでムいます、何うと申す理由はムいませんでしたらうが兎に角左様した家風なんでムいました、世の中の事は夢の様な者ですね、野田平さんを足蹴にした林さんは男爵で足蹴にされた野田平さんは子爵の殿、例令字餘り貴族にしてからが宮中の御會釋は矢張子爵並でムいましよう、ものねたらんものは大連の富の當り籤斗りではムいません』と云ひ終つて目を閉ぢた、羨らぬものは實に人の運命なるかな、花月に在つて幾多の紳仲居に其一顰一笑を顧慮され當時の今年妻女が擲翠樓上に一仲居として相見へんとは誰かしものあらんや、測られぬは人の身の成る果て（つゞく）

●李址鎔等の公判期

▽來る九日午前十一時

嚮に賭博犯として檢擧されたる伯爵李址鎔以下五名の犯罪事實に就ては豫て京城地方裁判所境檢事の手許に於て取調中なりしが右の結果何れも證據充分にして一昨三十一日同檢事より公判に付せられたるが愈々來る九日午前十一時より當地方裁判所に於て塚原裁判長の係にて公判を開廷するに決せりと

●特勝な小學生徒

京城古市町東田源次（九）は去る三十一日學校より歸宅の途中漢江通にて金員在中の財布を拾得し直に龍山署へ届出でたりと家庭の美しさも偲ばる

●訂正

昨紙本欄第四段目末行『賭博クラブ』と題したる記事中『クラブの一室に於て』云々と記したるは全く誤聞にて事實は西大門分署及び孫澤ホテルの一室なりしに付右發表す

●中檢藝妓一月中席順

新春の晴衣に裝ふ心も勇み氣も引き立ち去年の怨を晴した政子も勇み氣も引き立ち不景氣を挽回せんものと東に奔り西に走り足を空にしての活動振りに深傷淺傷を負ふたるも數知れず光榮ある座に着きしは井門の政子〇〇實驗に依るは云はずもがな續いて松葉の照羽光奴時松茶羅丸と五番迄何れも功名手柄は若武者の手に歸したり以下を羅列すれば

勝次（花）鶴吉（井）た染（擲）秀奴（花）小政（花）勝利（花）踊子（擲）福助（花）一枚（花）若一（花）光菊（濱）金彌（花）浦子（松）一奴（花）福龍（花）小達磨（花）壽美江（擲）靜子（擲）若子（花）光子（花）桃太郎（花）十郎（花）た辰（花）たも茶（擲）江戸奴（擲）

●大和倶樂部球戯大會

▽一等は物産の鮮童

豫報の如く大和倶樂部の新年玉突競技大會は去る二十七、八、九の三日間晝夜に亘りて開催されたるが愈々決戰に入り四日午後七時より開始して十二時閉會したるが受賞者は一等六十圓三井物産の鮮童二等三十圓手形組合の大橋氏三等二十圓龍山印刷局栗原氏にて以下四等諏訪五等藤富六等松尾七等鹽田八等山下九等荒谷（永登浦）十等橋本（龍山）の諸氏特別競技にて一等馬路二等篠崎三等小口の三氏賞に入りたるが來會者は京仁を通じて百餘名頗る盛會なりし

●藝妓ご一萬圓

擲翠樓江戸奴

一萬圓問題を提げて江戸奴に對す齒切れの好い爽かな江戸ッ兒辨は對い向つた者を引き着ける、不明瞭な關東關西チャンポン辨に聾つて居た耳は拭はれた如だ

『一番は恐れ入りました、私は常に斯う云ふ事を考へて居るのでムいますよ、ヨタ小說にもムいますわね、夢にも會つた事もない叔父さんがあつて夫れが遠い國へ參つて成功したが其財産を讓る子供も親類も無い、八方手を分けて搜索した結果が私と云ふ姪の有ることが判つたのは臨終時、何億圓かが遺言に依つて轉がり込む、目的は有りませんがマア左樣云ふ事があつた時には座うしようかしらつ、と情々考へる事がありますんですよ、エ、獨りで寢る晩だらうつてマア一体貴許は喧嘩に入來したのですか座うなんです失敬ですよ、オヤ〳〵素直にれ謝罪なさるの感心だワねね、オホホホホ、串戯は措いて私が今一萬圓あれば妹分のれ染どれいちやを落籍して殘つた金はエーッと支那の革命軍に寄附して終いませう僅か斗りですけど、エ、アノ方、アノ方は又座うにかなりますすよオホホホホホ

●贓品で船を造る

仁川松坂町木村清太郎は自己の所有帆船久洋丸が仁川より大連安東縣等へ航行し荷物の運搬に從事中去十二月二十三日同船長堀池住太郎（三〇）が鴨綠江の流木なりと稱し縦八尺物及び十六尺物十數本と豆粕數個元價百餘圓の物品を持來りたるを僅か十圓にて買受け大工島本某に事情を打明け自己所有船の修繕に使用したる事其の筋の探知する處となり本人の申立に倘曖昧の點あるより目下取調中

●惡漢の退鮮處分

原籍和歌山縣西室郡日置村生れ當時仁川住所不定横山政吉（三三）は其筋の注意人物なりしが愈々二月一日より向ふ三ヶ年間朝鮮内在留禁止を仁川警察署より命ぜらる因に同署にては引續無頼の惡漢は退治する方針なりと云ふ

●仕方の無い女共

仁川花房町二丁目山口縣生龜田みよ（四三）同町兵庫縣生山本甚作（三二）同町鳥取縣生岡田とめ（二九）の三名は三十一日午後二時頃龜田方にて賭博中取押へられ龜田は十圓山本岡田は各五圓の科料に處せらる

●敷島娼妓の大目玉

仁川第二敷島樓の娼妓福助、奴、愛之助、秀子の四名は三十一日の夜歌舞伎座見物に出驅けたはよけれども無斷外出と來て居るので大目玉頂戴してシホ〳〵と引下る

●正直者の木泥棒

京城府延禧宮亭子洞三統五戸全用石（六五）は先頭中同地綏慶園山林中に入りて松樹を伐採せし事發見せられ龍山署より告發せられたるが平素性質純良なるにより特に此程訓戒放免せられたり

●京城禁酒會

二日午後七時半より旭町二丁目名古屋城に於て月次例會あり演題左の如し

所感　細井敬一君

獨逸皇帝の禁酒演說を讀みし感あり　工學士　川江秀雄君

●演藝だより

▲壽座　引き續いて好人氣を博し居る若島屋一座二日の替狂言は『蜂の白雪實錄千代萩』なりと

▲歌舞伎座　浪花節芝居市川小圓次一座今晩の藝題は前『博多五郎』の續き切『義士劇岡野金右衛門』なり

▲龍山佐久良座　新派劇中村榮の一行にて今二日より開場の筈なるが初日の藝題は『妻と妻』

▲竹園館　相も變らず圓若一行にて切には座員總出で喜仙踊清元踊住吉踊と謂つたものを御目に掛ける由なり

宗匠訪問錄（三）

香茶生花琴三味線踊や唄の宗匠巡り

裏千家茶道今日庵宗室師範代

鷲山宗直氏（下）

無らば如何なる德あつて男女の別なく茶道を習ふのであるかと云ふならば精神を緻密にする心が落付て事に當つても狼狽することなく充分に自分の能力を發揮することが出來る殊に婦人に取つては日常經濟上の利益が頗る多いのである例へば茶には懐石が付いてゐる時刻だからとて食事を斡する場合に客の食量は豫め知ることができないから量を多く出さぬ即はち喰べきれる範圍で出だすものである故に五人の客を呼ぶ五人分の材料をキッチリと買ふて殘る如のことなからしめる是れを日常の副食物に應用したならば一年二年と重なれば隨分多額のものとなる譯である又時間の勵行といふことが守られよく京都時間大阪時間など、云ふて遲れて行く人が偉い樣に思ふてゐる人が多くあるが茶道では十二時に招かれたならば十一時半迄に行くのが禮式でツレより早くても遲れても失禮に當るものである其他茶道に關しては茶席の建築爐の切方即はち京間疊田舍疊三六疊此の三種に依つて一定した爐の切方が七種もあり茶席の掛物臺子にも眞の臺子大臺子小臺子の三種ありトテモ一朝一夕には話し盡すことができない終りに我が國に於ける茶道の開祖は南都稱明寺の珠光和尚で將軍足利義政に手を執つて教へたものである義政公の家臣に能阿彌藝阿彌相阿彌の三人があつて曲尺割を造つたものであるそして裏千家では明治維新の頃中興の大宗匠と謂はるゝ玄々齋宗匠が立禮式を工夫して外國人にも茶道を廣めた又茶箱と云つて凡ての道具を小さい一ッの箱に仕込んだのがある是れも雪月花の三通りあつて裏千家獨得のものである云々と聽き了つて辭し去らんとすれば叮嚀に玄關まで送り出だした動作が如何にも優雅であつたソコで成程愛にも茶道の德が現はれたかとツク〳〵茶の德に感じ入つて了つた（終）

洋犬紛失

一ドイツ種ポインア牝犬一頭

特徴　毛色白色肝臟色に白點あり

兩足半白　短き尻尾　大きな光る眼

右は『ドラ』と呼べば來る犬なり御發見の御方は左記へ御知せ被下候へば相當の謝禮を差上べく候

西大門分署又は

米國領事館

●京城券番藝妓芝居と役割

▽一生懸命の稽古振

既報の通り京城券番藝妓芝居は四日より開演の筈にて一生懸命稽古最中なるが初日の狂言は序『繪本太功記』十段目一番目『十二時會稽曾我』殿皮の場二番目『彦山權現誓助太刀』『六助住家の場切『新版歌祭文』お染久松野崎村』久作住家の場にて二日目は序『玉藻前旭の袂』道春館の場一番目『假名手本忠臣藏』一力の場二番目『傾城阿波の鳴戸』どんどろ大師の場切『須磨の浦平敦盛』扇屋内より五條の橋迄、三日目序『近江源氏先陣館』盛綱首實檢の場一番目『菅原傳授手習鑑』寺子屋の場二番目『中將姫古跡の松』豊成公館の場切『鬼一法眼三略卷』菊畑の場にて重なる割役は左の如し

久作、三助、奴宮藏（玉家伊達子）千崎彌五郎、熊谷、豊成公（同い京）た染、初花姫、折子たぎん、腰元、さつき（同靜江）かつら子、腰元白菊、御臺綾の方（同玉奴）仁田四郎、斧九太夫、尼妙ちん、北條時政　岩根御前（同仇吉）御所五郎丸、大星由良之助、和田兵衛（ゑびや福助）梶原平三、鷲塚金藤次、扇屋上總（同勝治）和田義盛、堺軍次（同小福）徹塵彈正、たみつ、鷲坂伴内（つたや吉彌）初菊、力彌、腰元楓（同雛子）梶原景高、萩の方、奴智恵内（花の家榮次）賴朝公、母た幸、た弓、春藤玄番（きく家文之助）武智重次郎、腰元梅野（由良家小奴）北條時政、皆鶴姫（同市松）小四郎（同繁子）母た品、ゑびや京）母さつき、た周、松王丸（榛澤十郎、桐の谷、腰元せきや（清水席峯松）腰元早瀬、妻樺火、中將姫（同政彌）腰元千鳥、矢間重次郎、小萩實は教經、奴陸助（同笑太郎）久吉公、桂姫（同一奴）榛澤六郎、竹下孫八、大仁廣次、笠原淡海（同鶴羽）戸浪（同御代治）浮舟（玉家大吉）曾我五郎、姉輪平次、猪又八郎、武部源藏（花家かづ）妻みさほ、女房た輕（同靖子）ふとんまくら、仲居たぎん、妻早瀬（新江戸家萬龍）加藤清正、一力亭主（同一龍）福島市松、采女之助（二三龍）光秀、中納言重行公、竹森喜太八、尼妙典、千代、奴三平（同梅奴）犬坊丸、杣斧右衛門小三郎（きくやどんぼ）八十松、たつる（同定子）毛谷村六助、寺岡平右衛門、佐々木高綱（錦道樂）

●壽座稽古場覗き

▽四日から開演する藝妓芝居

四日から壽座で開演する京城券番藝妓の芝居がスパラシイ前景氣なのでフト稽古を覗いてみた冬の日晝過ぎの弱い光線が高い明り取りの窓硝子から流れ込んでゐる大道具小道具が雜然と列んで薄暗い舞臺の奥が霽はに見ねてダラしのない悟した社界の人の生活を想ふ……舞臺は忠臣藏の内一力樓の場で平常着の儘な藝妓衆が由良之助を圍んでワイ〳〵騷いでゐる圓い顏三角なの長いの短かいのでとり〴〵に面白い私は粉黛を施こした人工的の美よりもヤハリ自然の美を喜ぶ素顏が嬉しい銀杏返しや島田の女俳客とでも云ふ樣な三人士が現はれた褞袍を纏ふた若島屋一座の俳優諸君が傍に附き添つて型を見せると役々の藝妓衆の瞳は役者の一舉一動に連れてキョロ〳〵光り手足が無意識に動く百人餘りの關係者が見物席に控へてゐて時々聲が低い……とか懷中ぢやないんだせと喚鳴る、輕と平右衛門が名乘り合ふ邊から氣絶する處丸火鉢の前に褞袍を着た師匠の手から哀愁の籠つた三味の音が舞臺一面に漂ふて胸に沁み込む樣な氣がする愁嘆場なのだ舞臺の奥にはれ醫を見物席に向けた若い妓達が手を執り合つたり銀紙張の刀を拔いたりしてはキャッ〳〵云つてる悲喜併せ見るを得た譯緊張の中に少しばかりダレ氣はあるが兎に角一同熱心に稽古を勵んでゐることは確かなものだ開演の日を待遠しいのは私ばかりではあるまい（せい子）